

## 有限会社 桜井工業（金属製品製造業）



桜井社長

1963年（昭和38年）有限会社桜井工業を設立。創業者である父から会社を受け継ぎ、現在3代目となる。会社設立前の和菓子製造から一変、火事の影響を乗り越え現在の再生ドラム缶を扱う金属製品製造に至る。鹿嶋や内陸部、千葉の京浜地区に商品を提供している。従業員は50名（健康経営優良法人認定当時）。

【平成28年2月】

協会けんぽ茨城支部の健康づくり推進事業所として認定される

【平成30年2月】

経済産業省・日本健康会議による顕彰制度「健康経営優良法人2018（中小規模法人部門）」において認定法人となる。



### 健康づくり推進宣言から知る

企業理念を「社員の心と体と経済的な幸福を追求し、再生で社会に貢献します」と掲げています。働く従業員が健康でないと仕事にも支障が出ますし、この企業理念を達成させるためにも様々な取り組みを行っています。設立当初から「従業員を守る」という意識はありましたが、何から取り組めばいいのかわかりませんでした。そんな中、協会けんぽの健康づくり推進事業所の宣言を行い、健康経営優良法人認定制度を知りました。認定されるために、何を取組めば良いのか、認定項目を基に考えていきました。



### 健診結果を放置しない

まずは健康診断の結果をそのままにせず、利用することから始めました。健診結果に問題があった者には「自覚症状がないから大丈夫」「病院は行きたくない」という者もいましたが、社長・総務が主体となって声掛けを行い、近隣の医院から紹介状を書いてもらい、大きな病院へ受診させるようにしました。

個人情報を会社側でどこまで知ればいいのか、どこまで管理すべきなのかは難しいところですが、そこで悩んでいては先に進むことができません。「自分は大丈夫」とつつい思いがてしまいますが、実際には自分の体を大切に思わない人はいませんよね。本人の健康への意識が大切だと思うので、引き続き声掛けをし、フォローしていこうと思います。



左：高木総務部長、中央：桜井社長、右：永門総務部主任

### 健康経営優良法人で他企業との接点も

健康経営に取り組み始めてから、休暇の内容が体調不良から私用が変わってきたと感じます。他には、事業所内で、事業所の半額負担でインフルエンザの予防接種もしており、インフルエンザによる欠勤者が減りました。また、健康経営優良法人に認定されてからは、中小企業の健康経営の取り組みや、健康経営優良法人に認定されるためのノウハウを教えてほしいということで、今まで関わりのなかった企業からアプローチがありました。



### 禁煙する従業員を増やしたい

建物内を分煙にしていますが、若い人ほど「吸い続けれます」という人が多い状況です（苦笑）。禁煙達成者には報奨金を出しており、現在3名が禁煙達成しています。また、禁煙外来の受診費用も事業所負担にしています。社内でたばこを吸わなくなれば、灰皿もいなくなりますし、何より危なくない。1人2人やめると、「自分も」と思ってくれる人もいるので、喫煙している従業員へは今後もアプローチを行っていきたくです。健康経営優良法人2019の認定基準で、「受動喫煙対策」が必須となるようなので、それを利用して、まずは建物内を禁煙にしていきたいと考えています。協会けんぽの禁煙教室もぜひ活用したいですね。

### 経営者からリードする

桜井社長曰く、「スポーツジムの利用を推奨していきたい。やりすぎはよくないが、適度な運動はストレス

の軽減や生活習慣病予防にもつながると思います。」とのこと。社長自らスポーツジムに通い、健康には十分気を付けていらっしゃいます。「楽しく・適度な運動を行える取り組みを取り入れていきたい」と目標を語られました。今後も健診・食事・メンタル・運動、様々な面で健康づくりの取り組みをリードし、従業員の健康を守られることでしょう。